

日本教材学会

The Japanese Association of Teaching and Learning Materials

通信

〒162-0831 東京都新宿区横寺町64-2 エデュイン神楽坂
TEL 03-5946-8717/FAX 03-3267-1047
URL <http://www.kyozai-gakkai.jp>

目次

☆巻頭言	澤崎 眞彦 1
☆ご案内 日本教材学会 第34回研究発表大会について	市川 洋子・事務局 1
☆事務局だより	事務局 4

〈巻頭言〉

会長就任について

会長 澤崎 眞彦

昨年の役員選考委員会で推薦いただき、10月の理事会、総会で佐野金吾前会長の後任として承認をいただきました澤崎眞彦です。会員の皆様のご協力を得ながら任務を果たすよう努めたいと思います。また、理事会をはじめ、各種委員会、事務局等のご協力を得ながら会長職の任務に努めたいと思います。よろしく申し上げます。

本学会は、創立者でもある故清水厚實第3代会長が目指した教材に関する研究者、教育実践者、教材作成者・販売者の皆様の協力による学術研究団体として、誕生しました。子どもたちの学びのための教材開発と普及、それによる学びの深化と改善・充実を目指しています。より良き教育の質の向上を願い、教育への貢献を目的に、教育界の重要な核の一端を担っているとも言える存在です。

「設立趣意書」にもありますように、「教育課程の研究の中で見逃せなくなっている重要な研究課題は、教材の問題」と捉え、研究活動の基本方針の一つとして一步一步を積み上げてきております。

その表れの一つが、本学会が取り組んでいる毎年開催されている会員の研究発表大会であり、研究成果の一つでもある『教材学』現状と展望

(上下巻)、「教材事典」、「教材学概論」の刊行物であります。

今後も研究発表大会での自由研究発表、研究プロジェクト、シンポジウム、「教材学研究」での研究論文、実践研究、実践報告等々を通して教材の更なる研究の深化と授業実践への貢献、子供たちの学びを豊かにする教材開発を願っています。

〈ご案内〉

日本教材学会 第34回研究発表大会

(オンライン大会)開催情報

日本教材学会第34回研究発表大会実行委員会

未だ収束することのないコロナ禍の中、日本教材学会の研究発表大会は第32、33回大会と続けて紙上発表会となりました。会員が一堂に会して議論をする場が失われながらも、なんとか研究発表の場を維持できるよう取り組んできたところです。来る第34回大会も参集しての実施はかないませんでしたが、学会初の試みとして、ZOOMによるオンライン研究発表大会を企画いたしました。初めてのことで、実行委員会一同試行錯誤をしながら運営に当たっております。会員各位の力強いご協力のもと、実りある大会となりますよう、是非とも多数のご参加いただきますようお願い申し上げます。

◆ご挨拶 大会実行委員長

新型コロナウイルス感染症拡大は一向に終息の気配を見せず、理事会において慎重に検討した結果、令和4年10月15日(土)・16日(日)に開催する日本教材学会第34回研究発表大会を、ZOOMによるオンラインで開催することとなりました。ZOOMによる開催は学会としては初めての試みですので、至らぬ点が多々あるとは思いますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

学習指導要領が改訂されて、「教師が教える」から「子どもが学ぶ」へと教育課程が大きくシフトチェンジしました。子どもが学ぶ教育課程においては、すべての子どもたちの可能性を引き出すために、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指します。そこでは、子どもが自ら課題を設定して主体的・探究的な学習を進めていきます。教師は、子どもの個性に合わせた学びをデザインし、一人一人の子どもに合わせて指導・支援していくことが求められています。これまでの教師主導の教育課程においては、同じ教材を使って一斉に指導することが一般的でしたが、子どもが学ぶ教育課程においては、子ども個々の学びのニーズに合わせて教材は変わっていきます。主教材と副教材を教師が事前に準備するというこれまでの教材観では対応できないことも多々出てきます。加えて、ツールとしてのICTを利活用することも考えていかなければなりません。

教育の転換点であり、今年度で日本教材学会発足35周年となる節目の年にあたり、本大会では「個別最適な学び、協働的な学び」という視点から、教材の在り方を見直していきたいと考えています。ZOOMによる発表者と参加者からの質疑応答という方法で進めてまいります。自由研究発表や研究プロジェクト発表を含めて、多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

日本教材学会第34回研究発表大会
実行委員長 市川 洋子

◆開催概要

- ・ 日程：2022年10月15日(土)、16日(日)
- ・ 会場：ZOOM各ミーティングルーム

◆大会日程

15日(土)
10:00～自由研究発表(口頭発表)第1～4分科会
12:45～理事会
13:40～研究プロジェクト発表 3会場
15:10 終了

16日(日)
10:00～自由研究発表(口頭発表)第5～7分科会
12:15～総会
13:10～シンポジウム
14:40 終了

◆発表数・シンポジウム等概要

今大会の発表数は、次の通りです。

- ・ 口頭発表 25件
- ・ 研究プロジェクト発表 3件
- ・ シンポジウム

◆シンポジウム『学びのコントローラー』を子どもにわたすための教材の在り方～探究的な学びの実現を目指して～

◇コーディネーター:市川洋子(敬愛大学)

◇シンポジスト

- ・ 中川大輔(名古屋市立矢田小学校)
「プロジェクト型学習を取り入れた6年生総合的な学習の時間」
- ・ 衣川由美子(名古屋市立矢田小学校)
「プロジェクト型学習の要素を取り入れた4年算数科の授業」
- ・ 広石英記(東京電機大学、NPO法人日本PBL研究所)
「PBLにおける教材の意味を探る一教材(学習素材)の宝箱としての地域社会を中心とし」
- ・ 森 達也((株)教育同人社)
「探究的な学びを通じて、学校のための教材づくりの本質を考える」

◆研究プロジェクト中間発表一覧

1. 「特別の教科 道徳」のパラダイム複線化-直観主義パラダイムによる社会的困難を生き抜く力の育成を目指して-
プロジェクト代表 石川 勝彦

2. 保育・教育者資質としての聴覚及び声の育成プログラム開発－2021年度の授業実践分析を中心にー

プロジェクト代表 渡辺 行野

3. 教材と教科教育の研究－「表現」力を養う教材のあり方についてー

プロジェクト代表 前田 善仁

◆参加事前申し込み

今回の大会に参加される方は、**事前申し込みが必須**です。

参加登録受付終了後に申込者全員に事務局よりメールで「ZOOM会場アドレス一覧表」をお送りいたします(10/10予定)。申し込んだにもかかわらず10/12を過ぎてもご案内が届かない場合は、お手数ですが事務局までメールでご連絡ください。

【日本教材学会第34回研究発表大会 事前参加申し込みフォーム】



<https://forms.gle/ei5Y4q7JpJVz2DJq7>

受付期間 2022.9.25～2022.10.9

◆ZOOMによる開催方法

【会場】

自由研究発表各分科会、各研究プロジェクト発表、シンポジウム、総会、(理事会)に、それぞれ ZOOM の会場が用意されます。各会場の ZOOM アドレスは事前申し込みをいただいた方に、事前申し込み受付期間終了後、別途メールにて「ZOOM会場アドレス一覧表」をお送りします。

10/12を過ぎても ZOOM アドレスのご案内が届かない場合は、お手数ですが事務局(kyozai-gakkai@nit.or.jp)までご一報ください。

【参加上限】

各会場は ZOOM に同時参加できる参加上限があります。

自由研究各分科会、各研究プロジェクト発表 → 各100名

シンポジウム、総会 → 各500名

各会場の出入りは自由ですが、この上限を超えて同時に入室することはできません。ご承知おきください。

【参加にあたっての注意事項】

・ ZOOM のインストールや基本操作方法は、インターネット上の解説情報等をご参照ください。ZOOM に関するお問い合わせは、大会実行委員会ならびに学会事務局ではお答えできませんのでご了承ください。

・ ZOOM を最新版に更新しておくことを推奨します。

・ 通信状況のよい環境や機器を利用してご参加ください。

・ 大会期間中、参加者ご自身に起因するトラブル(接続環境、操作ミス等)には大会事務局は責任を負えません。予めご了承ください。

・ 大会期間中、総会及びシンポジウム、研究発表の録音・録画及びスクリーンショット等は、一切禁止といたします。

【自由研究発表、研究プロジェクト、シンポジウム、総会への参加方法】

①事務局(kyozai-gakkai@nit.or.jp)からメールが届きます。

自由研究発表各分科会、各研究プロジェクト発表、シンポジウム、総会、(理事会)、それぞれに ZOOM の会場が用意されます。各会場の ZOOM の URL は事前申し込みをいただいた方に、別途メールにてお知らせ(事前申し込み受付期間終了後)いたします。

②当日、参加したい会場の URL をクリックしてご参加ください。

なお、会議室の入室は、ミーティング ID とパスコードで参加することも可能です。URL をクリックしてもうまく入室できない場合は、ZOOM アプリからミーティング ID とパスコードを直接入力して参加してください。

③参加時には、マイクとカメラが OFF となっていることを確認してください。

④参加者は「氏名@所属」という形でお名前を表示してください。

【発表方法】

- ① 発表される会場に ZOOM から入室してください。
- ② 発表の順番が来ましたら、マイクとカメラを ON にしてください。
- ③ 「画面の共有」をクリックして(図5)、スライド等の画面を共有してください。
- ④ 司会の指示に従って、発表を開始してください。

※発表資料を共有する場合は、チャットに貼り付けてください。

【質疑等における発言方法】

- ① 「リアクション」の「手を挙げる」をクリックしてください。
- ② 司会の指示に従って、マイクとカメラを ON にしてください。
- ③ 質疑が終了しましたら、再度マイクとカメラを OFF にしてください。

事務局だより

事務局

◆事務局より

この度事務局長を拝命しました、清和大学の小松伸之と申します。研究者、実践者、教材制作・販売等に関わる方々の三者の結びつきからなるこの学会の特色を生かして、さらに活発な学会活動を展望していきたいと考えております。大学に勤務しながらの職務となるため、みなさまにはご迷惑をおかけする場面もあるかと思いますが、継続して勤務くださる今多勝代事務局員とともに学会運営を支えて参ります。会員の皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

◆新入会員のご紹介

下記「議事報告」に記載しました2022年度第3回常任理事会まで承認されました、新入会員の皆さまです。ご所属は承認時のものとなります。

氏名	所属	専門
三橋さゆり	埼玉大学 教育学部	音楽
徳井 和栄	鳥取県北栄町立 大栄中学校	理科
大村龍太郎	東京学芸大学	教育学（社会 科、小学校外国 語）
切畠 和宏	浜松学院高校	理科 （生物分野）
北村 一浩	愛知教育大学	技術・家庭（技 術分野）
露木 隆	静岡県立 浜松北高等学校	理科 （物理分野）
古川慎一郎	東邦大学 附属東邦高校	数学 （高大連携教 材の研究）
阿部 峻大	東洋大学大学院	社会科
谷内ますみ	聖徳大学大学院	保育・ 幼児教育
小野 穂波	東京農業大学	生物
土井 孝文	奈良県大和高田 市立磐園小学校	算数・数学
西村 和海	東京農工大学 （学生）	農学
熊谷 藍	山口県立宇部 総合支援学校	音楽
木村かおる	大妻女子大学 家政学部	理科（地学分 野）、博物館学
荒谷 航平	静岡大学 教育学部 附属島田中学校	理科、 理科教育史
永橋 希星	北九州市立大学	情報、 ネットワーク
原山 健一	奈良教育大学	美術、陶芸
世良 啓太	奈良教育大学	技術、 技術教育
筒井 和美	愛知教育大学 家政教育講座	家庭科
野末俊比古	青山学院大学 教育人間科学部 教育学科	教育情報学、図 書館情報学
茅野 政徳	山梨大学	国語（小学校国 語科教育）

◆議事報告

◇2022 年度第 1 回常任理事会（ZOOM による Web 会議）

日程：2022 年 5 月 14 日（土）

I). 報告事項

- (1). 日本教材学会第 34 回研究発表大会第 1 次案内の件
- (2). 日本教材学会第 34 回研究発表大会研究発表者募集のお知らせの件
- (3). 2021 年度決算報告の件
- (4). 2021 年度特別会計報告の件
→2021 年度決算報告及び 2021 年度特別会計報告については、10 月 15 日開催予定の理事会に諮られ、翌 16 日の総会に報告される。

II). 協議事項

- (1). 日本教材学会新規入会・退会会員承認の件
→承認された。
- (2). 日本教材学会 会費 2 年間未納者への対応の件
→コロナ禍であることを考慮して前年度の対応を継続し、会則第 9 条 2 項「会費未納による会員資格の喪失」の適用を見送る。ただし、未納者には継続的に呼びかける。
- (3). 年報 29 号以降の取り扱いの件
→未発刊になっている年報 29 号の早期刊行を目指す。
- (4). 学会契約 ZOOM アカウント活用の件について
→委員会や支部会での活用を呼びかける。

◇2022 年度第 2 回常任理事会（ZOOM による Web 会議）

日程：2022 年 7 月 16 日（土）

I). 報告事項

- (1). 日本教材学会第 34 回研究発表大会の件
 - ①. 自由研究発表の申込状況の件
 - ②. 時程案の変更の件
- (2). 日本教材学会第 35 回研究発表大会開催校の件

II). 協議事項

- (1). 日本教材学会新規入会・退会会員承認の件
→承認された。

◇2022 年度第 3 回常任理事会（ZOOM による Web 会議）

日程：2022 年 9 月 3 日（土）

I). 報告

- (1). 日本教材学会第 34 回研究発表大会の件
 - ①. 時程案再修正の件
 - ②. 自由研究発表の件
→発表は 25 件となり、7 分科会を設ける。
 - ③. 研究プロジェクト発表の件
→発表は 3 件となり、3 分科会を設ける。
 - ④. シンポジウムの件
→市川洋子実行委員長より説明がなされた。

II). 協議事項

- (1). 日本教材学会新規入会・退会会員承認の件
→承認された。

編集後記

通信第 47 号をお届けします。今号では新会長の就任あいさつと第 34 回研究発表大会を取り上げました。第 34 回大会は初めてのオンラインでの開催となり、参加事前申し込み方法や開催方法が記載されておりますので、参考にいただければと考えております。

新型コロナウイルスの影響下、GIGA スクール構想が提示され、教員には ICT を活用して指導する力が求められています。そこには、ICT を活用して効果的に資料などを提示したり、知識の定着や習熟をねらいとして繰り返し学習や程度に応じた課題に取り組みさせるだけでなく、児童生徒の意見などを共有させたり、比較検討させることや話し合っって考えをまとめたり、協働して制作したりすることが望まれています。ICT を活用することによって、主体的で協働的で深い学びの実現に期待が寄せられているのです。ICT の活用は教材に対する考え方も大きく変えました。今大会ではこれらを踏まえた提案や議論がなされることと期待されます。

最後になりますが、感染対策に十分に配慮の上、健康に過ごされますことを、事務局一同、祈念いたしております。

(編集担当 三小田 美穂子)